

科目概要

HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム 「ソーシャルクリニックと地域」

北海道教育大学函館校
准教授 森谷 康文

1.活動概要

「ソーシャルクリニックと地域」は、2018年度から実施されているHAKODATEコンシェルジュ養成プログラムの選択必修科目のひとつとして、「まちづくりカフェ」「留学生の函館や日本文化に関する学びのサポート」「留学生の地域活動支援」「子ども食堂に関わる活動」などへの参加機会を提供し、地域の実態や課題に実践を通してふれることを目指してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から、これまで参加してきた活動が中止もしくは縮小あるいは現場への参加を自粛することが必要となった。こうした状況を踏まえ、当科目の開講を4月から8月の前期から10月から翌年2月の後期に延期することを余儀なくされた。さらに、これまでの地域活動の実践の場に赴くことができないため、北海道で地域課題にとりくむ団体に活動を紹介する動画の作成を依頼し、その動画の視聴をふまえて、依頼した団体の活動に関する地域課題について、学生が個人及び小グループにわかれて調べるかたちで授業を実施することとなった。

これまで学生は地域活動に実際参加することを魅力を感じて、「ソーシャルクリニックと地域」を履修していた。今回は、その中心的な活動が制限されるなかで、10名の学生が履修をおこなった。

2.授業計画

- ①オリエンテーション、フィールドワークのところがまえ(講義)
- ②現場からの活動紹介
 - ・団体の紹介
 - ・団体からみた地域の課題
 - ・学生への期待など
- ③活動紹介を受け、各自が地域を設定し、講義で提示されたテーマ(問題)について各自で調べる。(自己学習)
- ④活動紹介の感想や各自が調べた内容について、小グループで意見交換をおこなう。
- ⑤北海道教育大函館校の学生がとりくんでいる地域活動報告を聞き、質疑応答をおこなう。
- ⑥現場からの報告、在校生のとりくむ地域活動から学んだこと、今後、自分がとりくんでみたい地域活動について意見交換をおこなう。


3.登壇した団体及び大学生の活動

- ①活動紹介団体
 - ・一般社団法人 函館圏フリースクールすまいる
 - ・函館日本語教育研究会 (JTS-hakodate)
 - ・NPO法人ワーカーズコープ 篠路まちづくりテラス和氣藍々
 - ・NPO 法人 ezorock
- ②報告をおこなった大学生の活動
 - ・「地域づくり支援実習」にて森町で滞在型イ

インターンシップをおこなった学生の活動報告



- ・湯川カトリック教会を基盤に外国人技能実習生との交流を定期的におこなっている学生の活動報告
- ・函館市内の小学校に通う日本語支援が必要な児童への学習支援活動をおこなっている学生の活動報告

講義で紹介された団体の活動

 子どもがどこでも学ぶことができる準備を

フリースクールが目指していること

- ▷ 「不登校」への根強い偏見の払拭
- ▷ 関係機関との連携や情報共有
 - ▷ 学校や医療機関との連携・協力
 - ▷ 必要に応じた治療や教育・療育
- ▷ 休める空間と学ぶ機会を作る
 - ▷ 自分で何が好きか、何ができるか知ること
 - ▷ 子どもが「学びは楽しい」と知ることの強さ
 - ▷ 子どもは未来を生きていく視点を

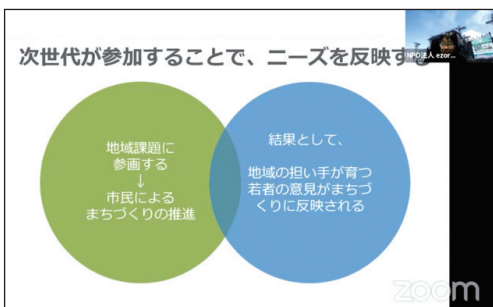
自分たちの住むまちのことを自分たちで考えよう

篠路らしさを活かしたまちに
駅前軟石倉庫の保存を考える活動
【倉庫3棟を壊してロータリーをつくる】

*学習会
*まち歩き
*シンポジウム
*話し合い

都市計画変更 倉庫が残る!!!



4.ソーシャルクリニックと地域の意義と位置づけ

現在の「ソーシャルクリニックと地域」の授業は、学生に地域の活動に参加する機会を提供し現場にはいる際のマナーやところがまえなどを学ぶ「フィールドワーク入門」と現場での体験から、地域で活動する団体がとりくむ地域課題について深めるという「地域課題発見入門」、また団体の運営や地域住民との関係づくりなどを実践的に学ぶという、「地域活動入門」という3つの意義がある。履修した学生からは「これまで知らなかった地域活動について知ることができた」「地域活動の実際を聞くことができ、興味がわきぜひ参加したいと思った」や「大学生の活動報告を聞き自分自身の今後の活動がイメージできた」といった感想があり、制限された活動のなかでも授業の一定の成果を伺わせるものとなった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の予防が必要ななかで、これまでのように多数の学生を実際の現場に一定期間参加させることができなかったことから、団体の運営や地域住民との関係づくりなどを実践的に学ぶ「地域活動入門」の機会を提供することは不十分に終わったことは否めない。

今後、新型コロナウイルス感染症の拡大・収束状況にもよるが、「ソーシャルクリニックと地域」を本学のおこなう「ソーシャルクリニック」の活動の一環として捉えるのであれば、地域に入る際の感染予防対策を徹底するための教員の配置もしくは活動紹介をおこなう遠隔授業やオンデマンド授業をさらに充実させることが必要となるだろう。